

# ふるさとの 其の24 誇り

## 市の指定文化財に 新たに4件が加わりました



木造阿彌陀如来坐像

木造阿彌陀如来坐像

下今井の隆円寺にあるこのお像の制作年代は鎌倉時代半ば頃と考えられます。像の表面は造立当時のまま伝えられており、特に衣には美しい金文様が残っています。また、像内には、浄土往生を願う文書が納められていました。像内に願文や納入品を奉納した阿彌陀如来像は県内では他に例がなく、阿彌陀さまに寄せる当時の人々の篤い信仰を具体的に伝える貴重な作例といえます。

木造厨子入り地藏菩薩坐像



木造厨子入り地藏菩薩坐像

十日市場の法幢院にあるこのお像と厨子は、戦国時代の作例です。仏さまを入れる厨子内面には、墨で天文3（1534）年に檀家の人々が費用を出しあい厨子を作った経緯が書かれ、当時の人々の厨子建立に寄せる思いを垣間見ることが出来ます。中世に遡る作例で仏像、厨子、銘文が揃って伝わるものは県内では非常に稀であり、厨子銘文中に十日市場の村名があることから、甲府盆地に春を呼ぶ祭りとして有名な「十日市」の起源を考える上でも興味深い作例です。



写真左から不動明王立像、十一面観音、毘沙門天

木造十一面観音及毘沙門天、  
不動明王立像

もともと円通院にあり、現在は下今井の隆円寺で管理しているこの三尊像は、別名「一日不見観音」ともいわれ、地域で大切に祀られてきました。三尊それぞれが一本の材から彫り出され、内ぐりのな

い一木造で、平安時代の作とはいえ、市内では最古級の仏像です。今回指定となった三尊像は、この形式では全国的に見ても古いもので、山梨の仏教の歴史を語る上でも重要です。



ロタコ跡 3号 掩体壕

ロタコ（御勅使河原飛行場）跡  
3号 掩体壕

戦争遺跡ロタコは、アジア太平洋戦争末期に御勅使川扇状地上に構築された日本陸軍の秘密飛行場です。その建設には、一日3000人ともいわれる地域住民や、朝鮮半島出身の労働者な

どが動員されました。掩体壕は、飛行機を敵から隠し爆撃から守るための施設で、ロタコを象徴する遺構のひとつといえ、発掘調査の結果、基礎部分の構造がよく残っていることが確認されています。このページのタイトルは「ふるさとの誇り」ですが、今回の文化財指定は、決して戦争遺跡ロタコが存在それ自体を誇るものではありません。むしろ60数年前の負の遺産として、過去の戦争と未来の平和を考える素材として、活かしていただければと思います。

※2 昔の建造物の形や構造を知る手がかりとなる残存物

※1 細長く切った金箔をにかわなどの接着剤を使って仏像の衣などの表面に貼り付け、繊細な文様を描き出す技法。